

リユースびん入り飲料 普及促進の取組



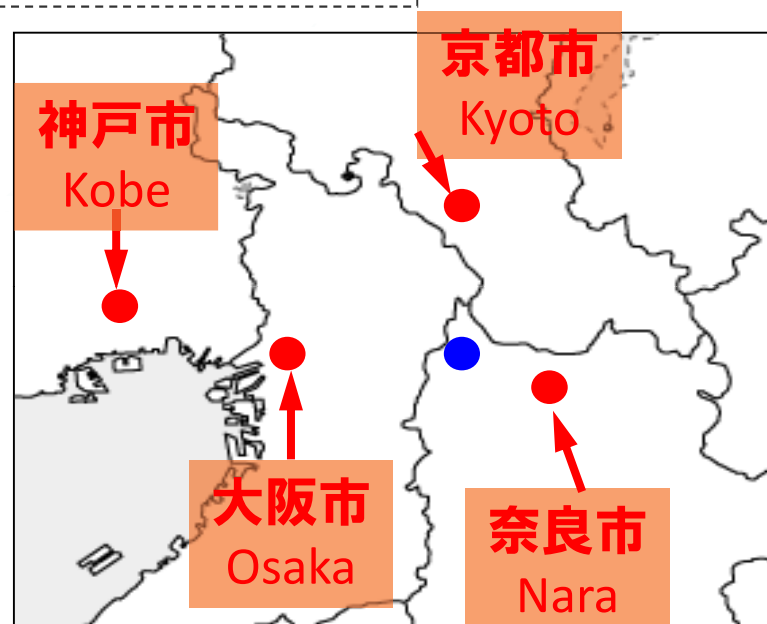
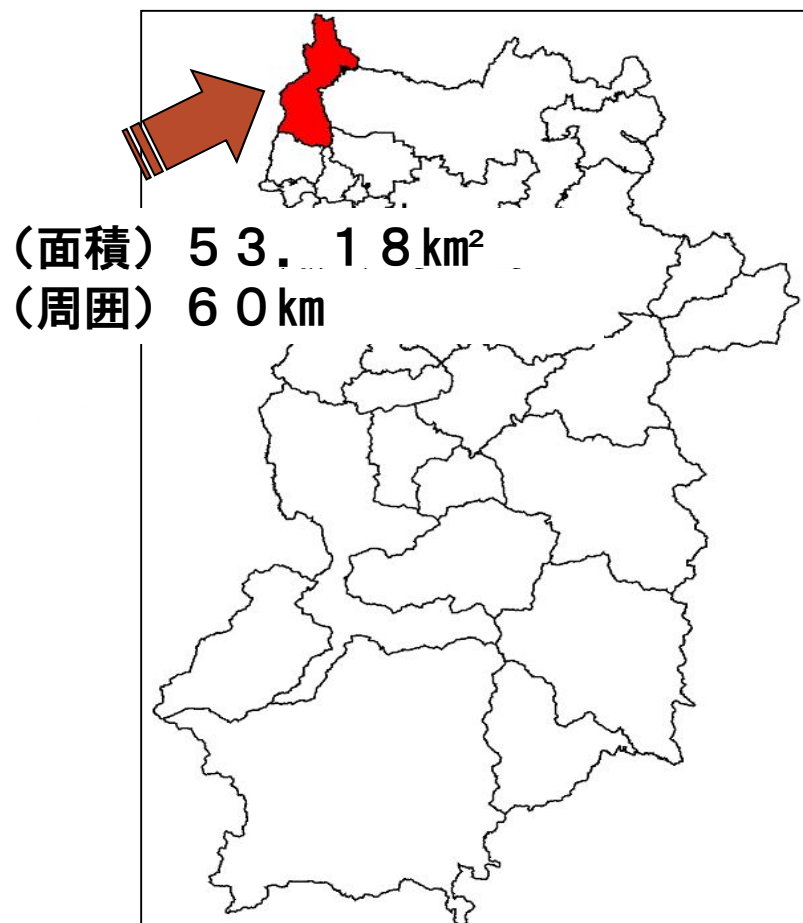
2014.1.20

生駒市

生駒市の概要

市制施行：昭和46年11月1日

人口：121,273人 世帯数：48,366世帯 (H26.1.1)



大阪へ	約23km (電車：20分)
奈良へ	約13km (電車：14分)
関西国際空港へ	約63km (電車：1時間)
神戸へ	約58km (電車：1時間)
京都へ	約43km (電車：45分)

取組の背景

□ 生駒市環境基本計画

「豊かな自然と歴史と未来が融合したまち いこま」

「市民」・「事業者」・「行政」のパートナーシップを形成し、「生駒市環境基本計画推進会議（ECO-net生駒）」にて計画を推進。

□ ごみ半減プラン（生駒市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画）

平成23年度～32年度の10年間で、燃えるごみの半減を目指す。

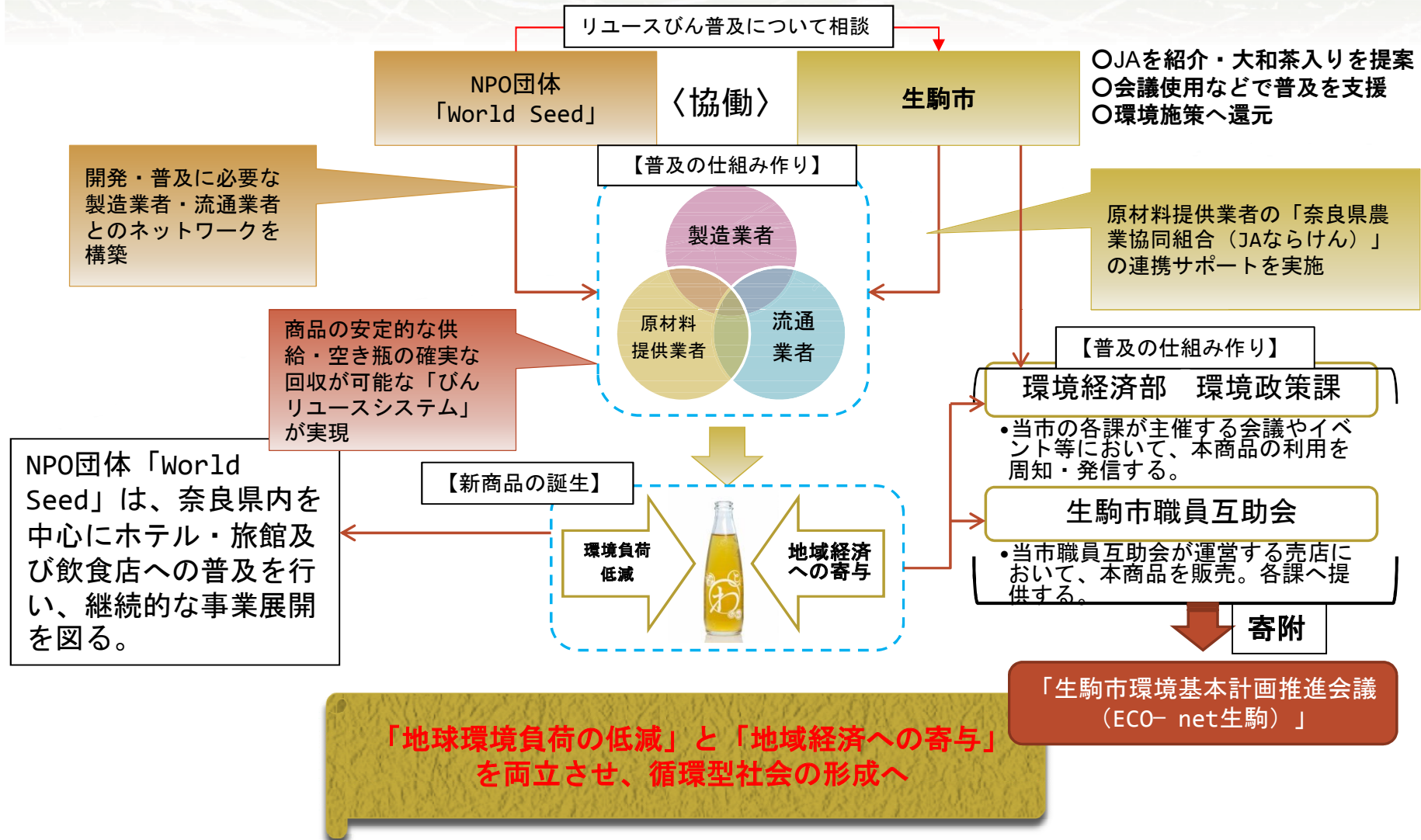
□ 環境マネジメントシステム（環境自治体スタンダード LAS-E）

市民が直接監査し、目標設定する仕組みで市の環境行動を推進

⇒「リターナブル容器の使用徹底」を位置付け

取組の概要～NPO団体との協働～

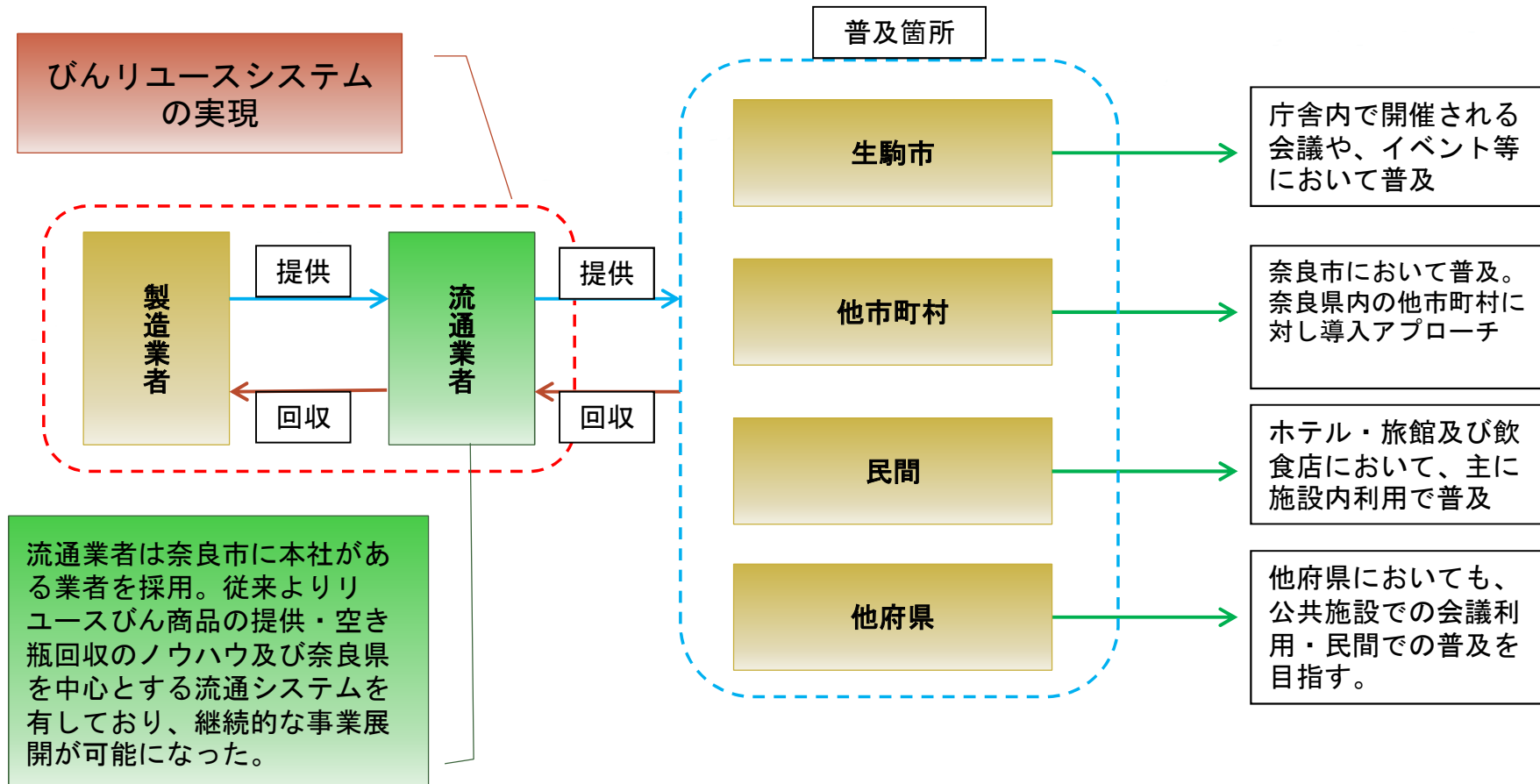
- NPO団体「World Seed」と協働で、リユースびん入り商品を開発・導入。



普及・拡大の基盤

流通システムの確立

リユースびん入り商品において、関連業者とのネットワーク構築により、商品の安定的な供給・空き瓶の確実な回収が可能になった。



生駒市での実績

- 市が主催する会議・イベント等でのリユースびん利用を原則化。
- 年間の会議等におけるペットボトル飲料利用率を半減させる。
(年間ペットボトル飲料利用本数：約4000本)
市職員互助会を通じた提供で、1080本を普及。(平成25年1月～12月)
- コミュニティセンターなど生涯学習施設4施設でも普及を開始。
指定管理者を通じた施設利用者への提供で、744本を普及。(平成25年5月～12月)



昨年度、当市にて開催された環境首都創造 自治体全国フォーラム2012 in 生駒での導入風景



平成24年度の環境シンポジウムでの導入風景

生駒市以外での普及拡大

●奈良県内ホテル・旅館及び飲食店等での普及

【奈良県は、多くの世界遺産を有する観光経済システムの都市】

県外から来られる観光客に対し「もてなしのくに 奈良」として、「ごみを出さないまちづくり」・「大和茶の発信」に資するものであり、「株式会社 奈良ホテル」をはじめ、県内約50店舗で利用が拡大しており、今も拡大中である。



ホテル・旅館では、会議及び宴会での利用が好評である。



飲食店では、セットでの飲み物として、またオリジナルカクテルとしても利用されている。

●奈良市が導入を表明

平成24年度1月15日より、奈良市売店での提供を開始している。奈良市においても奈良市環境部 環境政策課が協働窓口となり、会議等における率先した導入を呼び掛けている。



奈良市においては、導入にあたり、同市売店前にて、特設展示ブースを設け、職員に呼びかけを行った。

他市町村

生駒市

民間

奈良県外

●奈良県外での普及について

「豊中市立環境交流センター」にて、導入を開始。同センターに来られる利用者に対し、提供を行っている。



同センターは、平成25年度4月にオープンし、大阪府における公共施設でのリユースびん入り商品の導入が実現した。

17,097本（12月末時点）の普及を展開し、持続可能な仕組み作りによる循環型社会へ

取組の発信と波及

□ 3R推進協議会会長賞を受賞

NPO団体「World Seed」が3R推進協議会主催
「3R推進功労者等表彰」で会長賞を受賞。

□ 第15回グリーン購入大賞優秀賞を受賞

□ 月刊誌「生活と環境（10月号）での掲載

一般財団法人日本環境衛生センター発行の月刊誌に掲載。

□ 国の会議での利用

中央環境審議会循環型社会部会容器包装の3R推進に関する
小委員会及び産業構造審議会産業技術環境分科会・リサイクル
ワーキンググループ第1回合同会合



取組における課題

□ 市内部での更なる利用徹底

栓抜き、湯のみ（リユースカップ）の準備、返却の手間、びんの重さなど・・・
⇒率先行動の重要性を環境マネジメントシステムの運用で徹底

□ 市民・事業者への啓発・訴求

消費行動の転換に向けて、まずはリユースびんを知ってもらうことが必要・・・
⇒小・中学校の給食では、すべてリユース牛乳びんを使用

※ 販売店舗の事務負担

商品の回収・保管、預かり金の会計処理など

※ 破損防止等の品質確保

配送、保管過程での損傷発生についての十分な配慮

これからの展開

□ 生駒市環境基本計画への正式な位置付け

現在中間年の見直し作業を進めている市環境基本計画に、リユースびんの普及促進を取組内容として正式に位置付けることで、市民にリユースの重要性を伝え、市全体のごみ減量に繋げていきたい。

□ 奈良県びんリユース推進協議会（仮称）への参画

NPO団体「World Seed」が設立準備を進めている「奈良県びんリユース推進協議会（仮称）」へ参画し、今回の取り組みを発信することで、多様な主体とともに認識を深め、普及拡大へと繋げていきたい。

びんリユースを契機とした低炭素型まちづくりへ